

平成25年度 市長と語る市政懇談会 吉良地区 会議録

日 時 平成25年8月7日（水） 午後6時30分～8時30分
場 所 吉良町公民館（講堂）
出席者 町内会長始め団体の代表者47名、自由参加19名
市議会議員
市 側
市 長、神谷副市長、小島副市長、教育長、企画部長、地域振興部長、
建設部長、市民病院事務部長、消防長、総務部次長、福祉部次長、
子ども部次長、環境部次長、上下水道部次長、教育部次長、吉良支所長
進 行 小塚止一 代表町内会長 <白浜小校区>
提言件数 13件 自由意見 4件

【市長あいさつ】

皆さま、こんばんは。お元気で何よりです。市長の榊原康正でございます。今日は、吉良中学校区の市政懇談会を開催しましたところ、多数の皆さまにご出席をいただきありがとうございます。

この吉良地区は、やはり合併をいたしまして一番の中心と申しますか、いろいろな歴史がありますし、観光の面でこれから中心地、またその役割を担っていただくわけでございます。先月（7月）は、吉良花火大会を開催されました。多くの方が見物におみえになりまして、本当に勢いが感じられます。また、今月（8月）からハワイアンフェスティバルを26日から30日までの間開催されますが、これも本当にたくさんの方が踊りにおみえになったり、あるいはそれを見物におみえになったりということで、毎年活気が感じられます。そういった意味で吉良の皆さま方がいろいろ今までやって来てこられたことが今、活気づいております。これをぜひ、継承していただいて、さらに発展をさせていくことが今後の我々の務めかと思えます。

また、この吉良地区というのは、文化的・歴史的な財産があります。吉良町時代からつくってみえた米沢市の友好関係があります。6月に米沢市を訪問いたしまして、友好都市提携の申し込みをしましました。米沢市では、議会の議決が必要です。可決された後に安部三十郎市長がおみえになって、正式に提携を結んでまいります。私は米沢市を初めて訪問したのですが、本当に吉良を皆さまが愛してみえまして、市長あるいは、市議長、商工会の会頭等々と懇談をさせていただいたのですが、今まで吉良町の皆さまが長い間かけて友好を結んでいただいた成果が出ております。これからもこのつながりを西尾市の貴重な財産として、しっかりと引き継いでまいります。

今年は西尾市制60周年の記念すべき年で、いろいろな記念事業を開催しておりますが、ちょうど尾崎士郎先生がお亡くなりになって来年が50周年ということで尾崎士郎没50周年事業というのを今計画していただいています。これは、実行委員会の皆さまが企画をされて運営をされますが、非常に魅力的な事業がこの中にたくさんございます。私たちの年代ですと『人

生劇場』というのは映画でよく見まして、尾崎士郎の名前もよく知っていますが、今の若い人たちはそういったマスメディア等々で出会うきっかけがありませんので、尾崎士郎という郷土が生んだ偉大な作家を知らない方がたくさんみえます。これをきっかけに我々の先輩にこういうすばらしい方がみえたことをしっかりと認識していただきたいと思います。

今、いろいろな面で市のやっていることを市民の皆さまに情報発信させていただきますが、これがしっかりと発信ができていないと申しますか、役所の方では広報に載せたとか、どこかで話をしたとかで情報発信ができていていると思っっているんですが、皆さまにしっかりと伝わっていないことがあります。もし、10人ぐらいの会合をお開きになって「市のこういうことを聞いてみたい」というようなことがありましたらぜひ、市民協働ガイドというのを役所の中で昨年から発足しておりますので、職員が伺ってお話をさせていただきます。また、皆さまからお聞きしたご意見やご要望は、必ず返事をさせていただきます。担当の者がもし、出席をしていない場合は後日、答えますので、いつでも声をかけていただいて、市民の皆さまとのコミュニケーションを絶えず図ってまいります。

私の市政運営の一番の理念といたしまして「融和」と「協働」を掲げております。「融和」というのは、新しい市になって3年目を迎えているわけですが、いろいろな面でいろいろな組織、あるいは個人対個人、町内対町内、そういった関係を皆さまがよく理解していただいて、お互いに「やあやあ」と気楽に声を掛け合いながら、この町の中で暮らしていけるような友好関係をぜひ広めていただきたい。もう一つの「協働」ですが、今、行政でできることは限りがあり、すべてを行政でまかないきれぬ時代はもう終わったと私は思っております。今、団塊の世代で定年退職をされ、第二の人生のスタートを切られる、能力を持った方がたくさんおみえです。そういった皆さまのお力をお借りしながら、自分たちでできることは「こういうことができるのでとにかく、俺たちに任せてくれ」とか、協力関係をぜひ、お願いしたいと思います。

具体例を申し上げますと、幼稚園、保育園や小学校の園舎やグラウンドに芝生を植えています。植えるのは市でやりますが、維持管理は地元の皆さまにお願いをします。色々な成果を見てまいりましたが、やはりその地域は絆が深まって、人と人のふれあいの機会が増えますので、ますます良くなっていきます。

この本来の狙いは、園児や児童が本当に元気になって、将来の日本や地域を背負って立つ、元気な子供を育てたいことが大きな理由です。今年度、吉良地区では、横須賀小学校の校庭に芝生を植えていただきました。本当に今、きれいに成長しており、植える前と後では、環境が全く違います。先ほどこちらへ来る前に経過を見てまいりましたが、芝生の上を子供たちが走り回っていました。ふれあいの場もできますし、カンカン照りの日中も暑くないんです。チョウやトンボも飛んで来まして、そういった環境を子どもたちにしっかりと体験をさせて、ずっとこれからこの地域を緑あふれる、すばらしい環境にしたい。毎日暮らす我々の古里でございますので、全員野球で取り組んで「良くしていこうよ」ということが、私が今一番お願いしたいことでございます。ご理解いただいて「こういうことを我々はやりたいが、どうしたら良いか。」などと声をかけていただければ、喜んでご支援をさせていただきます。

最後にお願ひですが、8月10日土曜日に一色の坂田グラウンドにおきまして、愛知県の消防操法大会が開催されます。合併前を含めて、西尾市で開催するのは初めてです。消防団の操

法大会というのは各市町村の消防団が毎日、仕事を持ちながら訓練し、その訓練の成果を競うものであります。皆さま、お時間がございましたら、ぜひ、応援をお願いします。消防団諸君は日頃訓練し、真剣にこの地域を守っていこうという気概にあふれて毎日行動してくれております。

それでは、この後は皆さまと自由闊達な意見交換をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

【代表町内会長あいさつ】

白浜小校区代表町内会長の小塚です。本日はお忙しい中、また1日のお疲れの後、市政懇談会にご出席くださりましてありがとうございます。

地元市議会議員の皆さまにおかれましては、公私ともお忙しい中、ご臨席たまり厚くお礼申し上げます。

本日の市政懇談会が吉良地域の発展、西尾市の向上へつながるよう皆さま方の意見をよろしくお願いします。

【意見・要望と回答】

1 富好町内会長

○ 津波発生時における富好地域の避難場所について

富好地区は、市より発行された「西尾市標高マップ」を見ますと、全地域で2mを超えるところはありません。津波が来た場合、どこへ避難したらよいか、どの道を通って避難したらよいか、また一時避難した場所が安全かどうか、それが非常に心配です。

候補地としては、正法寺山、吉良ゴルフ場、八幡神社、小山田神社が良いと思うが、どこを選定したらよいかお聞かせいただきたい。

市長／内閣府が示している南海トラフ巨大地震の津波被害の想定では、西尾市沿岸部への津波到達までに約50分程度の猶予があるとされていますが、市としましては、市民の皆さまに一刻も早い避難をお願いしているところです。

避難場所についてでございますが、^{とみよし}富好地区では、^{しょうぼうじやま}正法寺山、^{あおとり}青鳥の^{はちまんじんじゃ}八幡神社、^{おやまだ}小山田神社、吉良ゴルフ場など、先ほどおっしゃいましたが、それらが最適であると考えます。これら以外の場所を選定する場合は、高いところで、できれば雨露がしのげる場所を選定していただきたいと思います。

また、全員が同じ場所に避難する方が良いと思われるかもしれませんが、^{とみよし}富好地区は人口が多いため、分散避難の方が良いのではないかと思います。実際に、^{おぎわら}荻原小学校区のように、それぞれが最寄りの場所へ分散して避難する方法をとっているところもございます。

2 小山田町内会長

○ 白浜排水機の性能を100%働かせるうつつわ（ため池）があるか

白浜排水機の能力を100%働かせる貯水池が整っていないし、そこに流れ込む排水路も十分でない聞いています。一般的な農業排水なら、現在の饗庭、小山田、富好にある矢崎川に流れる排水機、それと白浜にある土地改良区管轄のもので十分だと考えられます。もう一つ白浜には農業基盤整備事業で造られた4台の排水機がありますが、それは今はやりのゲリラ豪雨に対する防災上の観点に立った排水機であるかどうかをお聞きしたい。そうであるなら、貯水池やそこへ流れ込む排水路の整備がなされてもよいと思うがどうでしょうか。また、それに併せて白浜排水機の能力を教えてほしい。それと排水機には停電時の発電機はあるかどうかお聞きしたい。

建設部長／白浜排水機場は、幹線排水路である白浜川と接する遊水池から排水をしています。先ほど貯水池と言われましたが私どもは^{ゆうすいち}遊水池と呼んでいます。

ポンプ能力から遊水池の規模を決定しており、現在ある貯水池で、まかなえると設置者である愛知県より伺っております。

白浜川は、現在、改修工事中であり、平成26年度完了予定と伺っております。遊水池は、平成22年度に一部^{しゅんせつ}浚渫、護岸整備がされています。

また、これらに流入する排水路は、平成23年度に整備されています。

やすさだ

保定用水でございますが、これは農業用用水路で、管理者である吉良土地改良区に確認したところ、現在、パイプライン化されて通常は、排水路として活用しています。途中にある小山田排水機場に接続されており、上流部の排水を受け持つようになっていますが、パイプラインに何らかの支障を来たすようであれば、用水路として活用するため、現在整備中と伺っています。

これらの事から、排水機の性能を発揮できる施設は、整備されていると考えますが、粗大ごみ等による排水阻害など日頃の維持管理が重要と考えます。

それからどれくらいの雨量に耐えられるかという質問をいただいたと思いますが、20年に1度の大雨に耐えられる内容です。

小山田町内会長／停電時の発電機は備え付けられていますか。

建設部長／完備しております。

3 津平地区コミュニティアドバイザー

○ 「今こそ、生涯学習」の時代。ぜひ、生涯学習の輪を西尾市に広げたい。吉良町では、昭和63年度を契機に、はじめは行政サイドで推進されたものが、年々町民の手で自主的に運営できるようになってきた。その火をたやすことなく過去の成果を基礎基本の土台として各中学校の生涯学習推進事業の歩みを大切にして、生涯学習のまち西尾市にしたい。

生涯学習の拡充について要望を述べさせていただきます。西尾市になって、文化、歴史、自然、人材等大変豊富になり喜んでおります。今こそ生涯学習の輪を広げる時だと思えます。ここで、生涯学習と生涯教育がよく混乱して使われていると思えますが、ここでは生涯学習ということで、「いつでも、どこでも、やりたい人がやれる」のが生涯学習の狙いであり、初めにこの点を挙げさせていただきます。

2点目は老若男女は心身ともに健康で明るく、安心して元気に暮らせる町にしたいということであります。今、高齢化率が高くなっていますが、寝たきりでは何にもなりませんので、元気に自分の心身を磨き、また他人のことを思いやり互いに学ぶことができる町になったらよいと思えます。具体的には各中学校を単位として活動すれば小回りが利くので、そこからやれることを始めていくことが生涯学習では大事だと思います。そして徐々に輪を広げて拡充を図っていけばよいと思えます。また、常々積極的にやっていくことも大事なので、時々発表する機会を設けたり、市民のニーズに合わせて誰でも参加できる場をつくるのが大事だと思います。

私は、平成10年から22年まで吉良町で生涯学習に携わらせていただきました。そこでいろいろ考え、得るものもありましたが、やはり継続は力だと思いました。情報を外へPRすることや、年に1、2回は発表会等を行い、市民の皆様の意見をお聴きし、次に生かしていくことが大事だと思います。最初のころは生涯学習課の人たちに迷惑をかけましたが、平成22年のころには自分たちで活動できるようになりました。新しい西尾市でも引き続き生涯学習の拡充を図っていきたいと思えます。

教育部次長／日ごろは、生涯学習推進委員、コミュニティアドバイザーとして生涯学習の輪を広げることにご尽力をいただき、ありがとうございます。生涯学習社会について、本市の目指すところは、「いつでも、どこでも、だれでも、どんなことでも」学ぶことができることであります。ご意見に同感であります。

市では、昨年度、西尾市生涯学習推進計画を策定し、「ひとづくり」、「まちづくり」、「地域文

化の振興」等について計画的かつ総合的に進めております。西尾市が“生涯学習のまち”として誇れるよう、今後、この計画の実現に向けて、生涯学習推進委員を始め各種団体の協力やアドバイザーの助言を得ながら推進してまいりますので、引き続き、ご支援をお願いいたします。

4 横須賀第2区町内会長

○ 上横須賀駅の駐輪場整備拡大と吉良吉田駅、上横須賀駅の駐車場整備を要望します

名鉄西尾線は赤字であります。早くからその対策に取り組んでいただき、また市民団体応援団も活発に推進活動をしていただき、乗客も若干増えていると聞いています。

現在吉良吉田駅の駐輪場は新設整備されたが、上横須賀駅は既存の狭いものしかなく乱雑となっています。最近乗降客の増加に伴い手狭となって自転車が置きにくく、路上駐輪のために固定金具もなく、強風などにより自転車が倒れて交通の障害になっていることもあります。名鉄に要望するだけでなく、西尾市が主体となって整備をお願いしたい。

もう一つ駐車場の問題があります。西尾蒲郡線の存続を図るためには、さらに乗降客増を図る必要があります。吉良吉田駅及び上横須賀駅周辺に自家用車の駐車がしやすくなれば、吉田駅では富好、鳥羽や松木島方面からの乗降客も期待できるし、上横須賀駅では吉良町東部のJR利用者を引き寄せることも可能となるので、民間駐車場の借り上げも含めた駐車場整備をお願いしたい。特に駐車場の整備がどの程度必要か、一部駅近くの民間駐車場を一定期間借り上げて試行してみると需要が判明するので、良い方法かと思えます。

地域振興部長／吉良吉田駅駐輪場の設置は、名鉄管理の駐輪場が狭いと要望から、改札口に近くて便利な空き地を借地し、市が整備して駐輪場を設置いたしました。上横須賀駅前の駐輪場は、名鉄が管理をしており、駅周辺には民間駐輪場があり、十分余裕がある状況でございます。

民間駐輪場の領域を侵さないよう今後の状況を注視しつつ、対策を検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

次に駅駐車場の整備につきましては、吉良吉田駅の西約200m離れた所に民間駐車場がありますが、十分な駐車スペースがないことも承知しております。ただ、上横須賀駅周辺では半径約150m以内に民間駐車場が整備されており、まだまだ余裕がある状況でございますので、ぜひとも活用していただきたいと思っております。

市としましても名鉄西尾・蒲郡線利用促進の観点から、自宅から自分で運転して駅まで行き、駐車していただいた後に公共交通機関に乗り換えて目的地へ向かう、いわゆるパークアンドライドのための一時駐車場の整備に努めてまいりますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

横須賀2区会長／民間の駐輪場を市が借りてもらえないか。

地域振興部長／駐輪場については名鉄の無料駐輪場があります。市が借りますとそれを簡単に無料で提供することは難しくなりますので、ご理解をいただきたい。

横須賀2区会長／利用を高めるには使い勝手が良いことが一番。横須賀駅へ行っても簡単に停められないので、津平校区の方だとJRへ行ってしまう。せつかく利用者がいるなら、引き付けられる施策をすべきです。駐輪場は見られましたか。

地域振興部長／私が見た時は夏休み期間中でしたが、8割ぐらいの利用でした。

5 饗庭町内会長 萩原小校区代表町内会長

○ 矢崎川護岸堤防改良工事の早期完了

現在、矢崎川堤防改良工事は順次進んでおります。この工事は平成26年度がひとつの区切りでその後は再び計画を策定し実施されるようです。しかし、東海・東南海地震の発生の危険は大変大きくなっており、その対策を急ぐ必要があります。そして、市長も防災・減災を市政の重要施策として掲げておられます。

矢崎川堤防は、大変老朽化が進んでおり、後で写真でお見せしますが、危険箇所があります。殊にコンクリートの割れ・はがれがあり、そこから堤防内部の土や砂が流出している様に見えます。地震の振動で津波が来る前に崩壊・潰れてしまうのではないかと心配です。今日は損壊箇所等の写真をごらん頂き、矢崎川の堤防の状態をまずはご理解いただき、安全で安心できる暮らしのために早急に改修をお願いします。

※ ここで写真を提示いただき、以下のような現場の状況をていねいに説明していただきました。

護岸コンクリートの割れ、はがれ箇所があり大変危険

橋、水門箇所の工事が未実施であり、そこは堤防が低くなっており、また、痛みが激しい。

建設部長／矢崎川については、現在、耐震調査結果に基づき、地震時における堤防沈下量の大きい区間から優先的に整備を進めております。

平成26年度までの未整備箇所につきましても継続して、平成27年度以降順次実施していく予定であると聞いております。

なお、写真でお示しいただきました、河川内の割れ・剥がれ等につきましても、改修の進むまでの間、計画的に河川パトロールにて監視を行なっていると聞いております。

橋につきましても、愛知県と協議を行い、早期に着手できるよう調整してまいりたいと考えております。

水門につきましても、御用田樋門ごようでんひもんと思います。

御用田樋門おぎわらについては、萩原排水機場の更新計画の中で、平成30年度完了を目標に整備を行なっていくと伺っています。

萩原小校区代表／現在の計画は分かりました。その計画を少しでも早めるには何をやっていったらよいですか。

建設部長／県が施工している事業ですので、強くお願いするしか方法がありません。悪いところがあれば教えていただければ、現場を確認するように伝えておきます。

萩原小校区代表／市長はどのように考えますか。

市長／西尾市の場合、防災、減災対策には前年比200%以上の予算を立てており、県、国も同じような予算を計上していると思われまますので、今の計画よりも早まる期待を持っております。県へ働きかけてまいりますのでよろしく申し上げます。

○ **現在、緊急時（地震、台風、その他災害時）の住民への情報伝達的手段としては、広報無線戸別受信機、屋外のスピーカーなどがあるが、市として緊急情報の伝達の漏れを防止する方をどのように考えているか？**

また、住民は市の動きとどのように連動すればよいか？

非常時の緊急連絡の放送がスピーカーが遠くにあり聞こえない、または聞き取れない集落がある（荻東町内会細畑地区など）。また、無線受信機の電池が切れていたり、電池の液漏れなどで故障していて、連絡のつかない状況があり、緊急事態が周知できず逃げ遅れて人命にかかわる事態も考えられる。

東北の震災では「大地震の後に津波が来る」ということを常識として知っていても、多くの人が逃げない、動かないという実態がありました。「津波が来るぞー」と知らせていて逃げ遅れたという事例もありました。

「危ない！急げ！」と背中を押すような一言が逃げるきっかけとなり、行動が起き、多くの命を守ることにになると考えます。

「津波てんでんこ」の精神で対応するためにも、漏れなく適切に情報を伝え、皆がすぐに逃げるが大変重要と考えます。

情報の伝達漏れを少なくするためにどのようなことが市として行われるのか、また、告知が速やかにできにくい家庭や集落には、どのような方法で緊急情報を伝達すればよいのでしょうか、われわれ町内会としては、どのような動きをすればよいのか、ご説明をお願いします。

総務部次長／いろいろなご心配をされていることは、重々承知いたしております。今、現状の情報伝達は、まず広報車による伝達、同報無線（屋外ラッパと各家庭に配布している防災ラジオ）、インターネットのホームページ、また携帯電話にはどの機種でも緊急時には自動的に一斉メールが入りますので、それを聞いて移動が可能となります。それ以外にも最近ではフェイスブックやツイッター、また地元のキャッチからも情報が伝わります。その他、ラジオ、テレビ、携帯電話のテレビ、車のカーナビに付いているテレビ等、多くの情報収集手段があると考えています。緊急情報の伝達は、最も重要なことであると認識しており、これまでの同報無線に加えて効果的に情報提供できるよう、先ほど申し上げたような携帯へ自動的に配信したり、また、私どもの方からエリアメールというもので情報提供できるようにしております。

揺れたら率先避難ということはどなたでもご存知だと思いますが、積極的に呼びかけをお願いします。大声で「逃げろ」という方法も東日本大震災で立証されております。なお、声掛けに一生懸命で逃げ遅れないように注意してください。今後も自主防災組織の実情に合わせた対応をいたしますので、遠慮なくお申し付けいただければと思います。

荻原小校区代表／図書館で借りた『巨大津波 その時ひとはどう動いたか』という本があります。

大変役に立ちますので、ぜひ市役所の方も読んでいただき、また知恵を授けていただきたい。

総務部次長／勉強させていただきます。

7 吉田小校区代表町内会長

○ 平成 25 年 5 月 26 日執行市長・市議会議員選挙の公約から遵守と責任の取り方等について、お伺いしたい

- 1 選挙管理委員会の公報、新聞、テレビ、ビラ、葉書などの公表により、市長及び市議会議員の公約が出ていますが、市長は、公約の意義、重み等をどのように考えておられますか。
- 2 任期 4 年の間に市長は如何にして、取り組まれますか。 取り組み姿勢をお聞かせ下さい。
- 3 先の選挙で市長は 3 万 4 千票を獲得し、T 氏は 2 万 9 千票強、K 氏は 2 万票強、Y 氏は 5 千票強で 3 新人を抑えて再選を果たされました。これに起因して自らの公約が前進できず、成果・実績に結びつかない場合は、いかに対応されますか。
- 4 吉良地区の南部は、農業、漁業の生産、海を中心とした観光開発などが強みで一部各種お祭り等のイベントで活性化を図っているようですが、依然として実感がありません。
市長は、この南部地区についても勉強していただいていると思いますが、この場でぜひ、お考えを。
- 5 当選して市議会議員の選挙公約について市長と同レベル若しくは、それ以上のことを言っている議員もいると思いますが、市長は聞いてもらえますか。
- 6 市長の公約をサポートすべき特別職・管理職等の勤務評価等は、報酬、定数等の観点からいかにして取り組まれますか。

市長／選挙公約は向こう 4 年間における市政運営の方針を市民の皆さまに提示し約束するものとして、大変重みのあるものと考えております。

私に課せられたのは、新西尾市の将来像と新たな可能性をはっきりと示し、次のステップへと礎づくりを前進させることとありますので、今は公約実現に向けて地道に愚直に徹底的に取り組んでいくことが何よりも大切だと考えています。

市議会議員の公約につきましては、一般質問などで取り上げていただいたうえで、それぞれ検討してまいります。建設的で有益な提案に対しましては積極的に取り組んでいきたいと思っております。

吉良地区南部につきましては、市内屈指の観光地として積極的に PR 活動を行うとともに、西三河 9 市の市長会議などでも活用し、市外からの誘客に努めたいと考えております。さらに名鉄西尾蒲郡線の存続を始め、海岸部では南海トラフ地震に対応するため、海岸・河川堤防の耐震工事に力を入れて取り組んでまいります。

勤務評価等につきましては、公約に限らず職員の業務全般に関して能力・取組姿勢・成果について総合的に評価し、昇格等に活用するとともに、定数削減も含めた適正な職員配置に反映してまいります。

なお、特別職の報酬につきましては、市内の公共的団体の代表者等で組織された特別職報酬等審議会の意見を聞き市議会の承認を得て決定することと条例で定められています。

8 吉田第 2 区民生児童委員

○ 現存する二つの保育園（吉田・離島）の統廃合について

結論から申しますと子供たちが安心して生活できる保育園にしてほしい。

白浜保育園は新しくなり、津波避難所としても対策がとられていますが、吉田校区は吉田小

学校が唯一の避難所となっており、吉田保育園の園児は3歳児が26人、4歳児が26人、5歳児が33人の85人、離島保育園については、2歳児が4人、3歳児が18人、4歳児が22人、5歳児が24人の68人になっています。先日、吉田小学校と合同で訓練が行われました。吉田保育園から吉田小学校までは30分かかりましたが、他に逃げ道はありません。離島保育園は少し離れていますので、40分かかりました。

離島保育園は移転し新しく造られてから33年経過していますが耐震の問題はありません。しかし吉田保育園については、平屋で津波が来ればひとたまりもありません。また、橋が落ちれば避難もできない。吉田保育園は、吉良町時代に移転の話が出ており、土地の確保もできたにもかかわらず、移転は中止になったようです。その理由については深く追求しませんでした。ぜひ子どもたちが安心して生活できる保育園にしてほしいと思います。

子ども部次長／吉田保育園と離島^{はなれじま}保育園の2園の現在の状況ですが、

吉田保育園は、昭和42年3月に建てられ、築46年の鉄筋コンクリート造、平屋建てです。園児の定員は100人で、現在85人が通園しています。

離島保育園は、昭和56年4月に建てられ、築32年の鉄筋コンクリート造、2階建てです。園児の定員は100人で、現在68人が通園しています。

主な入学先となる吉田小学校の入学人数の推移ですが、今年度は59人で、来年度は61人を見込んでいます。その後は徐々に減少し、平成30年度には47人程度となる見込みで、少子化傾向にあります。

公共施設の耐用年数は、法定耐用年数を一つの目安としており、鉄筋コンクリート造であれば50年となります。吉田保育園は、あと4年で50年を迎えますが、耐震性には問題がないため、手を入れながら、少しでも長く使用していきたいと考えています。

吉田小学校区には、現在、吉田保育園と離島保育園の2園がありますが、離島保育園の建物の老朽化の状況を見据え、改築するには両保育園の統廃合も視野に入れながら、検討してまいります。

9 吉田第3区町内会長

○ 西尾市民病院の体制整備について

医師の充実強化依頼

私の母親が風呂場で倒れて救急車を呼び市民病院へ行ってもらおうようお願いしましたが、理由もわからずに市民病院から断られました。それで別の病院へ行きましたが、外科医しかいなかったのが最終的には安城更生病院へ搬送されました。

結果的には「事なき」を得ましたが、救急車を呼んで安城更生病院へ着くまでに1時間15分かかりました。われわれが一番信頼しているのは市民病院です。今回のことが氷山の一角だったのかどうかわかりませんが、このようなことのないように対策をとってほしい。

市民病院事務部長／このたびは当院での受入や救急隊員との連携が不十分で、兼子様始めご家族の方に大変なご心配とご迷惑をお掛けしましたことをまづもってお詫び申し上げます。

また、「事なき」を得たとお聞きしまして、大切なお母様のご健康でいらっしゃるものと思い、ほっとしているところでございます。

ご意見の日時等が1年前ということでは不明のため詳細が把握できませんが、当院の医師数は決して十分とはいえず、専門医師が他の患者さんの治療等に専念しているなどやむを得ず受け入れができないこともございます。

その場合には、急を要するため救命救急センターがある安城更生病院での治療をお勧めし、搬送する場合や紹介する場合がございます。

当院は、皆様の地域医療を守る機関として重要な責務を担っておりますが、医師不足により産科分娩の一時休止、小児科の夜間診療制限など、市民の皆様にはご迷惑をお掛けしております。

現在医師の確保につきましては、院長自ら大学の医局40カ所余りへ赴き、粘り強い医師派遣確保に努めております。また当院としては、医師が定着していただけるような環境づくりをしております。医師数につきましても僅かではありますが、8月1日に55名から56名と1名増えております。今後も皆様の信頼にお応えできるよう努力してまいりますので、ご理解をいただきたいと思います。

10 横須賀第4区町内会長

○ 空き家、空き地の安全、安心などに対する取り組みについて

横須賀小学校区内には数多くの空き家や空き地があり、今後さらに増加すると考えられます。この問題をそのまま放置しておく、例えば大災害が起きた時に避難の障害になったり、周りの家を破壊したりする心配もある。新聞紙上では不審火の原因にもなっています。また、当然町全体の美観も損ねることになります。横須賀地区に限らず町全体でもこういう問題は放置してはいけないと考えます。

他の市ではすでに条例化されたり、条例化の準備を進めたりしているところなど、前向きに推進している自治体もあります。今後の西尾市の取り組みについて、回答をお願いします。

消防長／空き家や空き地の管理については、「西尾市火災予防条例」により所有者、管理者又は占有者は火災予防上必要な措置を講じなければならないと定められており、消防では、現在把握している火災予防上危険な空き家95軒と空き地127箇所について、毎年、調査を行い、施錠等の管理や除草等の指導をしております。

また、環境部では、空き地の除草等に関して昨年度101件の苦情があり「西尾市空き地の環境保全に関する条例」に基づき、電話・書面等で土地の所有者・管理者に対して、適正な管理に努めるように指導しています。

他にも耕作放棄地、防犯などの問題もありますので、6月議会でも答弁しましたが、適正管理の仕組みを関係部局と調査研究してまいります。

横須賀4区会長／私たちがお願いしたいのは、縦割り行政でなく、横断的に進めていただきたい。八王子市はすでに条例化され、蒲郡市では9月に条例化される予定と聞いております。もう少し突っ込んで進めていただきたい。

進行／まだ意見・要望が残っておりますが、次は自由な意見交換の時間に移りたいと思います。

この後、発言される予定だった方には申し訳ありません。残りの意見要望（No. 11～13）につきましては、市から回答を書面でいただきたいと思います。

これからは、自由な意見交換の時間に移らせていただきます。

※No. 11～13 は、15 ページ以降に【文書回答分】として掲載しています。

【自由意見】

I 市民 I（吉良中学校区） ←（ ）書きはお住まいの中学校区

○ 市で各地域包括支援センターの中核的なセンターの設置を考えていきませんか

寝たきり状態の方は、2010年で390万人、2025年には480万人になるという国の統計・見込みが出ていますが、これは非常に大きな問題として提起されます。

在宅介護については、地域包括センターの資料の中で連絡先が社会福祉協議会となっており、これは市とは別の団体と思いますが、このような大きな課題については市で状況を把握し、地域包括センターとの情報ネットワークを構築して迅速に対応すべきと考えます。市の中核的センターとして考えていきませんか。

福祉部次長／地域包括支援センターは市内に7カ所ございまして、それぞれの地区の担当で、要介護の相談をさせていただいております。市の方で中核的な組織をつくってという事ですが、国としては在宅介護の手助けをするということで、地域の包括ケアシステムを構築する考えがあります。それぞれの地区で病院や介護施設、社会福祉施設が連携をとり、在宅で暮らせるようにしたいという考えがあります。その考えに基づき地域包括支援センターの内容を充実し、皆様のご要望に対応できるように考えております。

市民 I／今の回答は理解しました。

情報システムを構築して迅速に対応していくには、システムの中で業務を包括的に行うことを考えないと適切に対応できない。こうした点を踏まえて市で中核的な業務を担うような取り組みを考えていただきたい。

II 市民 II（吉良中学校区）

○ 防災の資機材購入に補助を

合併してすごいなと思ったのは、私どものような小さな集落にも防災倉庫を設置していただき、資機材7つ道具を整備していただいたことです。しかし反面、吉良町時代には行われていた資機材購入の補助がなくなりました。例えば大地震で停電した場合、発電機が必要になるが購入費用が高く、補助なしでは購入が難しい。今年の3月に市の防災課からアンケートがあり、「資機材の補助を希望しますか。」という項目がありました。その結果が知りたく5月の防災会議の会長会議の席で同じ質問をしたところ、大部分の会長は補助金があればありがたいという結果でした。補助金制度を考えていただけるとありがたい。

○ 大地震が起きた場合の小・中学生の引き取りについて

あと1点、東北のような大地震が起こった場合、小・中学生はどう対応したらいいのか。地震が突然来た場合、当然親御さんは心配なので迎えに行かれると思います。学校や保育園は車で大渋滞となり身動きができなくなることも考えられます。そこで小・中学校では避難訓練や親御さんに手渡す訓練を行っているかどうか。東北の釜石小のように親御さんは迎えに来ない

ような方法もあるが、その辺はしっかり決めておく必要があります。迎えに行ったために被災することもあるので、具体的な対応をどう考えているのか、考えていないならぜひ対応してもらいたい。

総務部次長／資機材の件からお話しします。現在、市には277の自主防災会があり、アンケートをとらせていただきました。277の内、247の会から回答をいただいた。247の内、70%の174の会から「補助金がほしい」と言われており、なおかつ、174の内、124の会からは実際に資機材を購入したいという意見をいただいております。現在、防災課で検討しておりますのでよろしくお願いします。

教育部次長／児童・生徒の災害時の引き取りですが、各学校で緊急避難マニュアルを備え、状況は学校によって違うので、その状況に応じて引き取り訓練を行っております。引き取りにつきましては、訓練を重ねて混乱のないようにしてまいります。

市民Ⅱ／学校の運動場へ車が入ることができれば、ある程度スムーズな引き取りができると思うが、もし運動場が使えないとすると、学校周辺が大変混雑するのではないかと思い、質問をさせていただきました。ぜひ、スムーズな形で親に子が渡るようにお願いします。

Ⅲ 市民Ⅲ（吉良中学校区）

○ 消火栓の操作指導をお願いしたい

旧吉良町時代は今でいう町内会単位で、町の補助事業により消火用ホースとか消火器を設置し、消防団の応援を得て初期消火訓練を行ってきました。保管庫がだいぶ痛んできましたので、市に補助金をお願いしたところ、消防署が良い感触をもっていないとのことで「初期消火を町民がするのは、いかがなものか」と言われました。消防団経験者も多数おりますので、旧吉良町のように町民が使えるように。消火栓の操作指導をお願いしたい。

消防長／吉良地区はそれぞれの消火栓に管槍とホースが設置されているのは、承知しております。また、この近くで火災が発生した時には、近所の方が初期消火にご協力いただいたことも聞いております。訓練の指導は要望があれば、お受けいたします。初期消火では、怪我に十分気をつけて行っていただきたい。

○ ホース等の資機材の補助について

市民Ⅲ／ホース等の資機材の補助について考えてもらえるかどうか、率直な意見をお聞きしたい。

総務部次長／前向きに検討します。

Ⅳ 市民Ⅳ（吉良中学校区）

○ 防災ラジオについて

吉良町時代に同報無線で各世帯に配られたものがあるが、非常に古くてたぶんどの家も使えないと思います。代えてもらおうと吉良町時代は確か8,000円だったと思いますが、今はもっとコンパクトでラジオ付きの良いものがあるので、そういうものを配ってほしい。無料とは言わないが、1,000円か2,000円程度で安くしてほしい。

同報無線は皆さん頼りにしています。メールの説明もありましたが、お年寄りではメールは分かりません。私も昨年、防災訓練に参加した時に一斉メールが入ったと言われましたが、よくわかりませんでした。こうした点の充実をお願いします。

総務部次長／防災ラジオのことをおっしゃられていると思いますが、以前は1台 35,000 円くらいでした。当時、それを全戸配布しその後、三角形のラジオに切り替わっていますが 12,000 円します。現在、市でそれを 4,500 円で提供しています。

災害時の応急対策は全力で行いますが、平素のことにつきましては、ご家庭でも力添えをいただきたいと考えており、新たにご購入いただきたいと思います。

市民Ⅳ／できれば安くしてほしいが、よろしくをお願いします。

【市長 閉会のあいさつ】

大変長時間にわたり、ご熱心に協議いただきありがとうございました。お伺いしておりますと震災関係のご心配をあちこちから聞かせていただきました。愛知県の公表ですが、西尾市内で 1,800 人の死者がでるのではないかと予測がされていますが、私は、いざという時に西尾市から 1 人も犠牲者を出さないという強い決意であります。

それと我々の住んでいる地域はどうなっていくかわかっていることをお話しします。景気、経済情勢には浮き沈みがございます。しかし、確実に分かっているのは、少子高齢化が急速にやってきているということです。厚生労働省が発表しました数字によりますと、今から 27 年後の 2,040 年には全国の都道府県の人口が減少します。西尾市は 2 万人程減少します。今、我々が考えなければならないのは、27 年後にはどういう世の中になっているかを認識していただきたい。医療費、介護の問題で費用が膨張する一方です。いろいろな要望が出ております。「道路をつくってほしい。」「橋をかけてほしい。」など。しかし、人口は減っていきます。そういうものが増えていきますと維持管理が膨大にかかります。現在でも 50 年前につくった橋やトンネルを修理しないと自然崩壊していくような危険な状態が我々の身近にも起こっており、これは日本全体の問題でもあります。そういったことを忘れずに皆さま方もこれからいろいろなことを進めていっていただきたい。

今、若者たちに子供を産めと、我々も若者対策をいろいろとしてまいりますが、おそらく若者たちは本能的に「自分たちが将来子供をつくっても子供たちは幸せにならないんじゃないか」ということを感じてしまっているのではないかと思います。私はそれを今、一番心配しております。動物でも植物でも生物の最大の本能は自分の子孫をいかに残すかということが一番の本能であります。ですから我々人類も生き延びてまいりました。ただ日本の場合、その本能さえも今若者たちが失ってきている。これは何としても一番国の存亡に関わってくることでありますので、若者の応援をこれからしてまいります。

皆さま方はまだまだお元気でありますし、これから先もご活躍をいただかなければいけない方ばかりでございます。どうか自分の健康管理はしっかりやっていただいて、いかなる時にもいざという時に災害が起きても自分で行動ができる、普段から自分自身がお気をつけいただいて、市として地域のためにお力をお貸しいただきたいと思います。勝手なことを申しますが、私も将来が非常に心配で申し上げました。今日は本当にありがとうございました。

【文書回答分】

11 友国自主防災会

○ 災害発生時の災害弱者（要援護者）への救済活動に有効な手段である人命救済用資機材（イスとアルミ製リヤカー）の整備の為に助成を要望したい

災害（地震、台風他）から被害の発生が考えられる状況下において、地域の防災組織の任務は防災訓練効果から正確な情報収集に走り、素早い救済活動、迅速な避難誘導（移動）支援はとても重要であることは言うまでもない。このことは、毎年の防災訓練からの参加者アンケート及び反省点から学びとれるものである。中でも災害弱者への救済避難支援が問題となっていることは、どこの町内会においても少なくないはずである。如何に素早く行動するかである。自衛組織の共助意識はあっても、1対1で対処できることには、限りが出るのは必然的なことである。今回要望する機材助成は、利用に当っては、特別な年齢制限の必要性もないし、支援者（救助者）への大きな負担（体力的制限、男女制限）になるものでもないと思っています。

災害時の人命救助活動は、第一に支援行動である。素早い対処が必要不可欠である以上、人命支援に係わる資機材整備には、資金が掛るのは当然であろうが、機材整備で対処できるのであれば、安いものであると考える。継続する訓練活動の結果から見えたもの、又、防災（減災）意識の高揚を低下させない為にも是非とも整備計画を進めて頂きたいものである。

地域の防災活動は行政（メディア含む）の強い要望支援もあって、徐々に着実に進行しているのは事実である。合併前でも住民意識は高いものがあり、合併後であっても、その姿勢には、変わりはないものでなくてはならない。

人命救済資機材である車イスとアルミ製リヤカー（各2台）の整備補助（助成）は早急に計画実行し、進めて頂きたい。

総務部／自主防災会への人命救済資機材をはじめとする防災資機材の補助制度につきましては、今後の方針を決定するうえで重要な資料とするためにアンケートを実施させていただきました。

このアンケートの結果は、247の自主防災会から回答がありまして、70パーセント（174自主防災会）にあたる自主防災会から資機材の補助金が必要との回答であり、その内50パーセント（125自主防災会）が、整備計画があるとのことでありまして、その結果を踏まえて他市町の状況等を総合的に勘案し検討してまいります。

12 横須賀第1区町内会長 横須賀第5区子ども会会長

○ 公共施設使用料免除または減額措置のお願い

ある教室に参加されていた方は、年2回開催される文化祭（吉良町公民館）へ出展する為に各教室に通って作品づくりに励み楽しみに出展していました。合併後は文化祭へ出展するのに、個人負担金がかかるようになりました。作品づくりの楽しみが、お金をだしてまで出展するならやめたいと教室そのものがなくなり、日々の楽しみが一つ減りました。

子ども会活動でソフトボールやドッチボールの練習場所は普段は学校のグラウンドと体育館等を使用していますが、選挙、学校行事などがある時は他の公共の施設（横須賀公園、コミュニティ公園体育館）などを利用し練習を行っていますが、使用料金を支払わなければなりません。子供の育成の為にも免除か、活動費援助のご検討をお願いします。

教育委員会／公共施設の使用料につきましては、受益者負担の原則と利用者の公平性を保つため、負担をしていただいております。

また、単位子ども会には、子ども会活動に対しての支援を目的とした活動費補助金を交付させていただきますので、よろしくお願いいたします。（生涯学習課）

13 横須賀第4区町内会長 吉良中PTA会長

○ 横須賀コミュニティ公園の再整備について

横須賀コミュニティ公園には体育館、会議室、管理棟、テニスコート、グラウンド及び遊戯施設があり、大勢の人々に利用されている横須賀地区最大の総合施設です。

合併後では旧西尾市在住の方も利用していただき、利用者数も多い時は、300名を超えることもある。また、スポーツ施設として横須賀地区にとり非常に重要な施設となっている。

しかし、以下の問題点があり多くの住民から改善の要望があるので、予算化して再整備をお願いしたい。

改善点

1. 体育館の老朽化対策と耐震化工事の実施（公的避難所としても活用）
2. こども用の遊具の拡充（来場者が多い時には使えなく止む得ず帰る）
3. テニスコートの照明新設（夏のシーズンには昼間の使用は暑くて無理）
4. 公園まわり西側のフェンスがないため新設
5. 雨漏り箇所の点検修理

教育委員会／

1. コミュニティ公園体育館は、昭和50年に建設され、築38年を経過しており、耐用年数を過ぎております。

また、旧吉良町時代、平成16年2月に耐震診断を行った結果、耐震性能が非常に低いことから、耐震改修ができないとの判断をしております。

現在、西尾市は公共施設のあり方を見直すため、公共施設の再配置を進めております。利用者の安心・安全のためにも、吉良地区の体育館を含め、西尾市全体で体育館機能の見直しを行ってまいります。

3. テニスコートの照明設備につきましては、旧吉良町時代に設置要望がありましたが、周辺民家への影響などから、設置しなかった経緯があります。

したがって、照明設備につきましては、新たに設置することは考えておりません。

夜間につきましては、吉良テニスコート場（吉良町吉田地内）などをご利用くださるようよろしくお願いいたします。

5. 体育館の雨漏りにつきましては、補修的な対応とし、大規模な改修工事は予定しておりませんので、よろしくお願いいたします。

建設部／

2. 公園遊具につきましては、遊具を安全に利用してもらうため、遊具毎に決められている安全領域を確保しながら設置しておりますので、現在の設置スペースで遊具数を増やす予定はございません。また芝生広場もオープンスペースとして必要と考えております。このため遊具の拡充は公園全体の施設の配置の見直しが必要となりますが、先程ご要望のありました体育館の方針が決まりませんと、この配置計画にも着手できません。ご不便をお掛けしますが、お近くの公園の利用をお願いします。

4. 公園の西側につきましては、従前の低木が部分的に枯れてしまったため、トラロープと木杭^{こしら}で拵えた柵が設置してありますが、新たにネットフェンスか、又は地元の皆様のご協力を頂けるものなら、街中の緑を増すため、低木の植栽を行いたいと考えております。